

9 アルマの重ね葺き工法

9-3 本体施工上の注意事項

- 施工前、製品本体ウラ面(足先側)にセルフシーラントが確実に付いていることをご確認ください。
セルフシーラントが付いていないと突風などによりアルマ本体が飛散するおそれがあります。

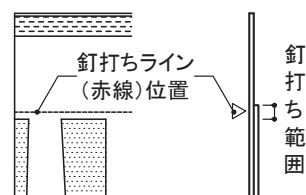
なお、セルフシーラントが接着能力を発揮するまでの期間は季節により異なります。

アルマ用シングルセメント(品番:SAC1500)を必ず併用して施工を行ってください。

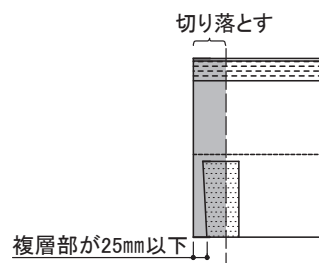
また、10寸を超える急勾配屋根ではアルマ本体の自重がかかりにくくなり、セルフシーラントが十分に接着しない場合がございます。施工の際はアルマ用シングルセメント(SAC1000)を所定位置に塗布(必要に応じて増し打ち)のうえ、十分に圧着してください。

- アルマ施工の際、釘打ちは必ず釘打ちライン(赤線)を目安とした複層部分に行ってください。

製品上部カットなどで、やむを得ず釘打ちライン以外の場所に釘打ちする際は、製品の複層部分に釘打ちしてください。釘頭があらわしになる部分はシングルセメント処理してください。



- アルマ製品複層部の幅が25mm以下となる場合、当該部分は経年で剥がれやすくなるため、本体施工時にあらかじめ当該部分を含む製品端部を切り落として施工してください。製品本体には製造上、最初から端部において複層部分の幅が非常に小さいものが含まれている場合がございます。ご了承願います。



- アルマ本体割り付け上、小幅材が出る場合は幅を150mm以上とってください。なお、製品が自着するまでのバタつきを考慮し、幅300mm以上とすることをおすすめします。
- 夏場、屋根面が60℃を超える環境下では施工後の屋根材面の歩行は極力控えてください。アルマ表面が踏みズレをおこすおそれがあります。やむを得ず歩行する際は歩み板を敷くなどの措置を講じ、踏みズレには十分留意してください。
- 冬場、外気温が5℃以下となる場合は、原則アルマの施工を控えてください。製品のうねり(波うち)、ひび割れの原因となります。やむを得ず低温時に施工する際は、日なたなどでアルマを温め、製品が屋根面に馴染むようになってから施工してください。
- 開梱後、アルマ本体裏面のセルフシーラントを下にした状態での仮置きは避けてください。セルフシーラントが熱により屋根面に溶着するおそれがあります。
- 雨天後の施工は、事前に屋根下地の状態を確認し、濡れている場合は施工しないでください。施工する場合は、必ず十分に乾燥した状態で施工を行ってください。

アルマの製品特性について

- アルマは原材料としてアスファルトを使用しているため、夏期は柔らかく、冬期は硬くなる性質があります。特に冬期施工時には屋根形状に馴染むまでに若干時間がかかる場合がございますので、あらかじめご了承願います。

●アルマの石落ちについて

本製品では製品表面の粒状石が落下する現象が見られますが、これはアスファルトシングル特有の現象です。粒状石の落下は製品異常ではございません。また、粒状石は天然石に着色されたものであり、有害物質は含んでおりません。